



IPS がやって来る

2026年6月、2年に一度のIPSの大会が福岡市で開かれます。IPSとは国際プラネタリウム協会（International Planetarium Society）の頭文字で、世界のプラネタリウムの専門家約600名が参加して、研究の成果や、投影事例の報告などを行います。日本での開催は1996年の大阪以来30年振りのことです。



2024年のベルリンでのIPS。セレモニーの様子。

IPSの会員は、世界各国にいます。しかし、プラネタリウムの目的が国によって違うということではなく、宇宙の神秘や不思議を通じて、科学的な興味を持ってもらうことにあり、一般の人だけではなく、意欲のある生徒・学生たちにも門戸が開かれています。ギャラクシティからも担当者を選出して、時代の最先端に遅れることのないよう、情報やトレンドを吸収する予定です。

5日間の会期中に17のワークショップ、11のパネルディスカッション、140以上の口頭発表、40以上のポスター発表の他、講演会や交流会等が行われます。

近年の特徴は、映像を制作する技術が普及し、パソコンさえあれば誰にでもドーム映像が作れるようになり、そのせいか、芸術家の参入も目立つようになってきました。芸術家にとって、ドームは非常に魅力的な表現空間に見えるようです。ドーム映像の世界は、天文や科学に留まらず、芸術やエンターテインメントまでを巻き込んで新たな文化として発展する兆しが見られます。また、ドームをVR空間として利用する挑戦的な試みも行われています。ドーム空間とサイバー空間が結びついて、新たな人々の居場所ができる可能性さえも秘めています。IPSに合わせてドーム映像を鑑賞するドームフェスティバルや、新たなドームの使い方を模索する団体IMERSA（イマーサ）の会議も同時に開催されます。